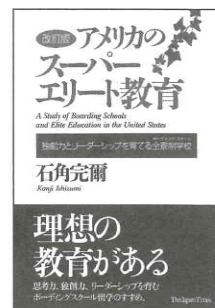


改訂版 アメリカのスーパーエリート教育

ボーディングスクール
独創力とリーダーシップを育てる全寮制学校

石角完爾 著



ジャパンタイムズ
2010年10月5日改訂版発行/335頁
2,100円/ISBN978-4-7890-1300-0

主要目次

- 1章 アメリカパワーの源泉は教育にある
- 2章 ボーディングスクールとは何か
- 3章 ザ・テン・スクールズ
- 4章 なぜボーディングスクールなのか
- 5章 ボーディングスクールの教育理念
- 6章 厳格なルール
- 7章 生徒の能力を引き出すシステム
- 8章 ボーディングスクールの経営
- 9章 外国人学生受け入れの実情
- 10章 ジュニア・ボーディングスクール
- 11章 学習障害児(LD)のためのボーディングスクール
- 12章 ボーディングスクールの教育システム
- 13章 科目教育現場
- 14章 大学進学指導 他 10章

著者紹介

いしずみ かんじ

1947年生まれ。京都大学法学部卒業。通商産業省(現・経済産業省)を経て、ハーバード大学、ペンシルベニア大学のロースクールを卒業。81年に千代田国際経営法律事務所を開設。弁護士、弁理士。

in brief

真のエリートを育てる、ボーディングスクール(全寮制学校)。米国にある、この中等教育機関について詳述する。

- 企業や国家のパワーの源は「人」である。その意味において、人材を育てる「教育」は極めて重要である。
- 中学・高校教育には、「ボトムアップ方式」と「プルアップ方式」の2つがある。前者は、子供全体を一定レベルに押し上げるための教育を行い、後者は、一部の子供だけを対象に、将来、社会の指導的立場に立てよう特別な教育を施す。
- 米国には、プルアップ方式を採用した、中・高一貫教育の「ボーディングスクール」という全寮制の教育機関がある。
- ボーディングスクールが全寮制なのは、子供を親から離れた厳しい環境に置き、1日24時間の密着教育を行うためである。
- ボーディングスクールでは、厳格なルールを通じて、例えば次のようなことを教育しようとしている。
 - ・ 罪を犯した時は正直に告白し、潔くそれを認めることが重要で、虚偽の弁解はもっと重大な罪である。
 - ・ レポートを作成する際などの無断借用は恥ずべきことであり、独創性にこそ学問的・社会的価値がある。
 - ・ 道徳的、人格的に信頼されることが大切である。
- ボーディングスクールの授業は、1クラス10名前後の少人数制で、生徒にプレゼンテーションやスピーチを行わせることが多い。また、優秀な生徒向けに上級者コースを設ける一方、成績の上がない生徒には個人補習を行う仕組みもある。
- 世界中から優秀な生徒を集めようとしているボーディングスクールは、世界各地から有能な人材を集めて定着させるという米国の国家戦略の重要なベースとなっている。

アメリカパワーの源泉は教育にあり!

企業や国家のパワーの源は、国家や企業が「人」の集まりである以上、人以外にない。人が腐れば、企業も国家も滅びる。

人は生まれてきただけでは宝石の原石のようなもので、これに磨きをかけなければただの石だ。

では、ただの石を宝石に生まれ変わらせるのは一体何か。それは、「教育」である。

注目すべきは、教育を施すのも人、教育を受けるのも人だということだ。人が人を教育する。ここに、教育というものの恐ろしい本質が存在する。多くの人が、このことに気づいていない。

例えば、ユダヤ人は世界人口の1%にも満たないが、ノーベル賞受賞者の約30%はユダヤ人だ。

そして、全ユダヤ人口の半分は米国にいる。私のハーバード法学校時代の友人は全員ユダヤ人であり、教授も大半はユダヤ人だった。

教育を施すのもユダヤ人、教育を受けるのもユダヤ人——この図式が続く限り、ユダヤ民族はノーベル賞受賞者を輩出し続けるだろう。人を教える教師こそが、民族の優劣の決め手となるのだ。

このように見ると、アメリカパワーの源泉は教育にあるということは明らかである。

●「ボトムアップ方式」と「プルアップ方式」

ここでいう教育とは、最も教育効果の発揮される10代後半の中学・高校教育であり、大学教育ではない。大学で学ぶ学問の土台を作る人格教育、人間教育、精神教育も含めた基礎教育のことだ。

基礎教育さえ間違いのないものであれば、その後いくらでも成長していけるからである。

その中学・高校教育には、2つのタイプがある。1つは「ボトムアップ方式(底上げ方式)」、もう1つは「プルアップ方式(吊り上げ方式)」だ。

ボトムアップ教育方式では、子供全体を一定レベルに押し上げるために、均一の教育をしていく。日本の教育は私立、公立を問わず、小・中・高・大学全てこのボトムアップ教育である。

これに対してプルアップ教育方式というのは、一部の少数の子供だけを特殊な教育環境に置いて、

他の大部分の子供とは違った教育を与え、彼らが将来社会の指導的立場につくことによって社会全体をレベルアップしていく、というやり方である。

米国には、このプルアップ教育方式を採用した教育機関として、中・高一貫教育の「ボーディングスクール」(全寮制学校)がある。

●ボーディングスクールとは何か

ボーディングスクールとは、一言でいうと次の通りとなる。

「生徒の多くが寮で生活し、大半の教師も寮あるいはキャンパス内の住宅に住み込んで生徒と寝食を共にし、厳格な規律の下、スポーツ・文化・芸術・社会奉仕・リーダーシップ教育にかなりの重点を配分し、徹底した少人数クラスでの個別教育を行う6年制(中・高一貫)あるいは4年制(高校)の、いかなる政府、自治体、宗教団体の財政援助も束縛も受けない私立の独立財政の中等教育学校」

ボーディングスクールは「インディペンデント・スクール」ともいわれる。その名の通り、経営が授業料と卒業生や各方面からの寄付および基金の運用収益だけで成り立っている全く独立の教育機関で、上記の通り、いかなる束縛も受けない。

日本でいう学習指導要領というものがなく、各校が独自の教育を行っている。

●なぜ、ボーディング=全寮制なのか

では、ボーディングスクールはなぜ「ボーディング=全寮制」でなければならないのか。

この答えは、次の通りである。

- ① 子供の教育、特に精神教育、情操教育のためには、子供が甘えるのが当然の親元から引き離し、規律の厳しい環境に置く必要がある。
- ② 教育のためには、子弟を両親の富裕な環境から遠ざける必要がある。
- ③ 子供を、都会の退廃から引き離す必要がある。
- ④ しっかりと勉強させ、スポーツや文化・芸術活動に打ち込ませ、同時に社会奉仕精神^{たた}を叩き込むためには週7日、1日24時間の密着教育が必要である。
- ⑤ 子供の独立心、自立心、創造性、リーダーシッ

プなどを育むためには、教師も生徒と一緒に寝起きする環境が必要である。

⑥フェアネスの精神、互譲精神、違う考えをどう受け入れるかなどを学ぶには相部屋の寮生活が一番である。

⑦良い生徒を集めるためには、通学可能な地域内の家庭の子供だけというわけにはいかない。以上が、全寮制であることの理由だ。ボーディングスクールの建校精神は、こういうところに根ざしているのである。

●ボーディングスクールは教師も住み込み

米国のボーディングスクールでは、教職員もまた、その大半が住み込み教師である。

ボーディングスクールに入学した場合、子供は親元を離れることになる。では、誰の影響を受けて人格形成を行うのかというと、それはキャンパス内に一緒に住む教職員および寮生である。

まさにボーディングスクールは「第2の家庭」を提供するのだ。それも甘やかされた環境ではなく、一定のルールと厳しさのある環境を提供する。

それがゆえにボーディングスクールは、キャンパス内に住む教職員の数および比率を極めて重視しているのだ。一般的に、7割、8割の教職員がキャンパスに住んでこそ、寄宿学校といえる。

また、多くの教師が住み込みであるのは、学校の質の維持および経営の問題とも関連している。

学校としては優秀な教師を集める必要があるが、通勤圏内に優秀な先生が住んでいる確率は、全米のそれより低い。よって、全米から優秀な教師をリクルートするため、住宅を提供する。

しかも、妻帯者でも子供がいる教師でも対応できるよう、キャンパス内にいくつもの1戸建てないしは2世帯住宅を完備している。

優秀な教職員を集めるために、別の特典も用意している。それは教職員の子供をその学校に優先的に入学させ、授業料も免除または大幅に軽減するというものだ。優先入学枠が与えられるというのは、親たる教職員にとって大変な魅力となる。

このようなわけで、ボーディングスクールには全米から優秀な教職員が殺到するのである。

厳格なルール

ボーディングスクールには厳しいルールが存在する。それを通じて、例えば、次のようなことを生徒に教えようとしている。

●なぜ誓約書にサインさせるのか——虚偽を排する思想
多くのボーディングスクールでは試験が終わった後、「私は試験で不正行為をしませんでした」という誓約書にサインさせられる。

カンニングをした者は、供述書に「私はカンニングをしてしまいました」と書いて提出するか、それとも「カンニングを致しませんでした」と虚偽の供述をして署名するか、二者択一を迫られる。

後者の場合、カンニングが発見されれば虚偽申告だから、退学処分等の厳しい処罰が科せられる。

こうして生徒は、公的な手続きや場面では虚偽の申し立てをしない、ということが社会の重大なルールの1つであることを思い知らされるのだ。

これは、ボーディングスクールが生徒に何を教えようとしているのかということに関わってくる。

人間は罪を犯してはならないが、人間は弱いものであるから罪を犯してしまうかもしれない。しかし、犯した罪は正直にこれを告白し、潔くそれを認めることこそ重要で、虚偽の弁解をすることはもっと重大な罪である、という考え方である。

人間の本性は弱い、だからキリスト教においては懺悔が認められている。このような思想が、ボーディングスクールで叩き込まれるのである。

●無断借用は重大な校則違反——独創性が大切

また、無断借用、英語でいえば「プレイジャリズム (plagiarism)」も重大なルール違反である。

例えば、引用であることを明示せずに、自分が考えたかのように記述してレポートを提出するような場合がこれに該当する。

生徒はレポート作成の際、出典を明記することを叩き込まれ、無断借用は徹底的に処罰される。

その狙いはどこにあるのか。

米国社会では、人の考えないことを考えることにこそ価値があるとされる。だから、独創性にこそ学問的・社会的価値を認め、物真似にはマイナ

スの評価のみならず処罰すら与える、という徹底した思想を教え込むのである。

●違反の現場にいれば共犯者——インテグリティが不可欠
ある学校の校則には、「校則違反の現場に居合わせた生徒は、全員共犯者とみなされる」とある。

そして、この学校の説明書には、校則違反を発見した場合には直ちにその現場から遠ざかり、共犯者とみなされないよう行動することが各生徒の責任であると明記されている。

なぜ、このような厳しいルールがあるのか。

規則違反の現場に居合わせるということは、その校則違反を黙認しているか、あるいは共犯者であると考えられる場合がほとんどだからである。

例えば、新入生へのしごきの現場に長時間居合わせることは、しごき行為を行っている他の生徒に加勢する行為であると考えられても仕方がない。

違法な行為にはいかなる形でも関与しないことを、その場から立ち去る形で示せと、ボーディングスクールでは校則の形で教えているのである。

ここにボーディングスクールが目指すエリート教育の1つの神髄を見る気がする。それを一言で表現すると、「インテグリティ (integrity)」=「道徳的、人格的に信頼できること」である。

端的に言えば、法律や校則に直接的に違反していなくても、道徳的、人格的に信頼できないというような評価が下されれば駄目だということだ。

生徒の能力を引き出すシステム

ボーディングスクールでは、生徒の能力を引き出すため、例えば次のようなことを行っている。

●プレゼンテーション

授業は、少人数制で1クラス10名前後である。生徒の発言が主体となって、先生が時折、発言を加えながら授業を進める形をとることが多く、特に自分の研究・調査結果などの成果を皆の前で発表するプレゼンテーションが頻繁に行われる。

また、1人2~3分のスピーチもよく課される。スピーチの主眼は、いかに聞いている者を引きつけ、自分の言いたいことを人に訴えるかという

ことに置かれる。

米国人のスピーチがメリハリが効いていてユーモアがあり、人を引きつけるのは、授業でこのような訓練を受けているからであろう。

●オナー・コース

どのボーディングスクールも、ある科目で優秀な成績を収めた生徒のために、「オナー・コース」と呼ばれる上級者コースを用意している。

他の生徒よりも学習スピードが速く、意欲に燃えている生徒は、この上級者コースによって能力をどんどん開花させていくことができる。

オナー・コース生よりさらに高度な能力がある生徒には、「アドバンスト・プログラム」という、大学レベルの授業も用意されている。

●エキストラ・ヘルプとラーニングセンター

ボーディングスクールは、つまづいている生徒も徹底的に面倒を見る。それが「エキストラ・ヘルプ制度」と「ラーニングセンター制度」だ。

エキストラ・ヘルプは、授業以外の個人補習。

ラーニングセンターは、基本的な能力があるのに勉強のやり方がまずいといった原因で成果が上がらない生徒のために、ラーニングスキル、ライティングスキル、ノートテイキング、タイムマネジメントなど、勉強のスキルを教えるセンターであり、専門のスタッフを配置している。

* * *

ボーディングスクールは世界中から優秀な生徒を集めようとしている。そして、米国の移民局の政策により、ボーディングスクールに留学するためのビザは15歳以上ならば簡単に出る。

このことから、ボーディングスクールの世界戦略は米国の国家戦略だと見ていい。狙いは、世界各地からの有能な人材の米国への定着である。

今まで米国は、MBAやロー・スクールなどの大学院や大学を留学生に開放してきた。ところが、卒業した者は母国に帰ってしまうことが多い。

米国が繁栄を続けるためには、有能な人材が米国に居ついてくれることが必要となる。ボーディングスクールは、そのような米国の国家戦略の重要なベースとなっていると考えられる。